

多自然川づくり取り組み事例

タイトル：重信川自然再生事業(中間報告)		
水系/河川名：重信川	河川分類：大河川	
河川の流域面積：445km ²	整備計画流量：2500m ³ /s(W=1/30)	セグメント：1
事業：環境整備	事業開始年度 平成16年度	
目標設定：定性的	段階：D(実施・施工時)	
課題・目的(主な)：水環境改善、瀬・淵の保全・再生・創出		
工法(主な)：魚道、落差工、帯工等の整備		
配慮事項(主な)：委員会、協議会等の開催		

背景・課題、目標設定

<背景・課題>

重信川の開発霞周辺は瀬切れ区間であり、過去に比べて瀬切れの延長・期間が増大している。また、開発霞内は昭和30年代まで湿地・樹林環境が存在し、多様な生物が生息・生育していたが、その後「かすみの森公園」として整備され、広場・水路(かんがい期は水が流れない)・遊具などが整備され、良好な生物の生息空間は喪失している。一方で、イベントの開催、子供の遊び場、バーベキュー等で広く利用されている。

<目標>

「生物の生息環境」と「人の利活用」に配慮した開発霞の整備を行う。

取り組み内容・対策例

開発霞では「生物の生息環境」と「人の利活用」の場の共存するために、「水辺散策ゾーン」「スポーツ・イベントゾーン」「親水・遊びゾーン」「陸生・水生生物保全ゾーン」のゾーン区分を行い、多様な環境を構築。

公園内水路の水を確保する為、泉より500m上流の高水敷に取水井戸を設け自然流下により導水。

また、水路流末部において、1/30勾配の階段式魚道水路に改造することで、急勾配、及び段差を解消、水路の上流には、滞筋に変化を与える等、多様な環境を創出するパーブ工で施工。



モニタリング結果、アピールポイント、今後の対応方針

<整備効果>

工事が完成した魚道の効果の確認のため、魚類、底生動物および両生類の現地調査を行った結果、魚類は9種を確認。特に、階段式魚道でシマヨシノボリやアマチチブ等、整備後に多くの魚類が利用していることが確認できた。

両生類は3種が確認され、なかでも、ニホンアマガエル、アマガエルは、自然再生事業実施後3年程度で確認できることを期待している小目標の種であり、整備の効果が確認できた。

<今後の対応>

引き続き整備を進めていき、良好な生育環境の再生を図る。



備考

重信川自然再生事業（中間報告） ～開発霞の自然再生～

Keywords : 小川再生, 霞堤, モニタリング

Before



開発霞（魚道部）施工前



After



階段式魚道

施工から約4年後

瀬切れ拡大等による生物環境が悪化し、水生生物の生息場所である湿地環境を再生する必要が生じた。そのため、水生生物の生息環境に配慮し、階段式魚道や段差解消といった小川等の整備を進めている。また、生物の生息環境だけでなく、人の利活用にも配慮して整備を進めており、設計・施工時の工夫点やモニタリング結果等について中間報告を行う。